

英語科学習指導案

指導者 教諭 南口 政子
ALT メアリー・リング

- 1 日 時 平成18年10月11日(水)
- 2 学 級 2年2組(男子17名 女19名 計36名)2年2組教室
- 3 主 題 New Horizon English Course Unit 5 A Park or a Parking Area
- 4 主題について

学習指導要領では、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」ということを目標としており、「話すこと」「書くこと」では、自分の考えなどを話すこと・書くことに重点を置いている。

本単元は、不法駐輪が引き起こした事故を発端とした駐輪場建設の是非を問うといった身近な社会問題を取り上げている。賛否を論じるという使用場面を設定しているため、自分の意見を述べるために必要な I think that 節や because 節の導入が必然的になされており、言語活動への移行を容易に行うことができる。あるテーマに対しての自分の考えを整理し、提言するという過程は、社会を生きぬくために必要な力ともなり得るので、そのような姿勢を養わせるためにも価値のある教材と考える。

2年2組の生徒は、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨み、言語活動にも積極的に取り組むことができている。また、家庭学習ノートに英語の授業の復習や単語・ターゲットセンテンスの練習を行う生徒が多い。しかし、一方で、反復練習等、英語への取り組みが弱く、書くことに苦手意識を持っている生徒がいることは、学調やその他のテスト結果からも明らかになっている。生徒の書くことへの意欲を引き出すため、「自分の夢」、「日記」、「先生へのお願い」等のセクションで、「書くこと」を主体とした授業を行ってきた結果、質問しながら熱心に取り組む姿勢が多く見られるようになった。本単元では、接続詞によって導かれる節の導入が初めてなされ、一文が長く、意味が複雑になるため、生徒が難しさを感じる可能性がある。そこで、1. 区切りによって主節と従属節の関係をおさえさせる。また、Because 節の場合、Why に対する Because の単文による受け答えから、自然なかたちで複文へと移行させる等の工夫をする。2. 十分なパターンプラクティスと、それらを実際に運用することによって、音での定着を図る。3. 「書くこと」によって、さらなる定着を図る。授業中の発言については、活発な生徒がいる一方で、全体的な発言の割合は高いとはいえない。本時では、because 節を用いて自分の考えをまとめ、述べることを学習課題としているので、生徒の興味・関心を引き出せるテーマ選択を行い、書くこと、そして、発言への積極的な取り組みを促したいと考える。

以上のような教材の性質と生徒の実態から、単元全体を通して、身近なテーマについての自分の考えを論じるという活動を中心としながら、自分の考えを整理し、書きとめ、それを発表しようとする態度を養わせたい。そのために必要となる I think that 節、Because 節等の言語材料の用法を言語活動の中で実際に用いることにより、身につけさせたい。

5 指導計画(7時間扱い: 本時4/7時間)

- (1) if 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 1時間
- (2) that 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。 1時間
- (3) 新聞記事を読んで、内容を理解し、また、それを参考にして、. 1時間
5W1Hの明確な、簡単な記事を書くことができる。
when 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (4) because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。 2時間
投書の意見を読んで、内容を理解し、また、それを参考にして、 (本時1/2)
簡単に自分の意見を述べるができる。
- (5) テレビのニュースを聞いて、そのポイントを聞きとることができる。 1時間
- (6) 病院の診察で用いられる表現を理解し、自分の体の不調について 1時間
説明できる。

6 本時の目標

(1) because 節を用いて、自分の意見を表現できる。

7 本時の指導構想

- (1) 本時では、“Why?” “Because~.”の単文の質疑応答により、新出単語 because に触れさせ、意味を確認した後、because を接続詞とする複文に移行し、パターンプラクティスによる音声での習得を図る。
- (2) 「好きな季節とその理由」が書かれたワークシートを使用した音読と読み取りを通して、because を用いた自分の意見の述べ方の口頭練習を行う。
- (3) 全体に1つの質問を与え、それに対する答えを各自で書き出させる。(辞書使用)
- (4) 自分の意見をペアによる対話形式で発表させる。

音読練習や読み取り、自分の意見を考え書き出す過程では、生徒同士の関わり合い、教えあいを大切にしたい。また、接続詞の使用により、話の幅が広がることに気づかせ、書くこと、読むこと、話すことにおいて、生徒ひとりひとりに自信をつけさせるよう指導を行っていきたい。そして、英語がコミュニケーションの手段であるということを生徒に常に意識させながら、言語活動に意欲的に取り組ませたい。

8 本時の評価の観点

観 点	具 体 の 評 価 規 準		「努力を要する生徒」への具体的支援
	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	
表現の能力	・ Because 節を用いて、自分の考えを文章にし、それを発表することができる。	・ Because 節を用いて、自分の考えをまとめ、書くことができる。	机間指導して、発音できない箇所を支援する。 語順が曖昧な部分を支援する。

9 展 開

段階	学 習 活 動	評価の視点・方法	指導上の留意点	形態・教材・ 教具
導入 5分	<p>1 挨拶</p> <p>2 本時の学習内容への導入</p> <ul style="list-style-type: none"> 物についての質疑応答 What is it? Why do you think it is~? Because~. Because の意味を確認する。 <p>3 学習課題を把握する。</p>	<p>意欲的に取り組んでいるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全員が顔を上げ、大きな声で応答しているかを確認する。 本時の学習に近づく質疑応答を行う。 理由を述べる時に新出単語 because を用いることに気づかせる。 学習課題を黒板に貼る。 	<p>物</p> <p>紙板書</p>
<p>学習課題 because 節を使って、自分の意見を表現しよう。</p>				
展開 40分	<p>4 言語活動に向けた練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ALT/JTE と生徒との質疑応答により、Because の使い方を確認する。 Because を用いた単文から複文への移行。パターンプラクティスにより、構文をおさえさせる。 <p>5 言語活動</p> <p>リーディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの読み取りと音読練習を行う。 全体での音読練習 自分の意見を選択し、意見の述べ方の口頭練習を行う。 <p>全体への質問を提示する。</p> <p>ライティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自、自分の意見を決め、ワークシートにその理由を書き出す。 <p>スピーキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで自分の意見を対話形式で発表する。 	<p>大きな声で練習しているか。</p> <p>意欲的に活動に取り組んでいるか。</p> <p>自分の意見を because を用いて表現しようとしているか。</p> <p>自分の意見を because や既習文型を用いて、英語で表現しようとして意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>各場所につき、2 文以上の理由記述。</p> <p>伝える相手を意識しながら、なめらかな会話ができているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全員が顔を上げ、大きな声で練習しているかを確認する。 because を用いた複文の、音声による定着を図る。 because 節の読みとりができているかを確認する。 机間指導により支援する。 How about you?を用いて、自然な会話の流れを作っているかを確認する。 机間指導により支援する。特に2文目のとりかかりに苦労している生徒へヒントを与える。 声量・アイコンタクト等、対話相手を意識させた活動をさせる。 	<p>ワークシート 19 ペアワーク</p> <p>ワークシート 20 和英辞書使用</p>
終末 5分	<p>6 宿題の指示と次時の予告</p> <p>7 挨拶</p>		<p>ワークシートを回収し、評価を行い、次時の授業に役立てる。</p>	